

座談会

日本外交に何が欠けているか

「日中復交万歳」いまこそ自主外交を、などといわれて年余になる。だが、アメリカのゆくところこれに従えば誤りなしとされてきた長い間の習性は、なかなか消えないものらしい。しかも、高度成長のなかで、「ドルさえあれば何事も」というおどりと甘えが、国家としての日本にも、個人としての日本人にも満ち満ちてしまったのでは……。

出席者

G 大学教授	H 大学教授	R 財界人
T 外交評論家	U 論説委員	X 評論家
Z 評論家		漫画 那須 良輔

日ソ会談で暴露した 政治的感性の欠如

本社 日中国交回復以来、日本の「自主外交」「多極外交」ということが盛んにいわれてきました。しかし、その後の中東戦争、石油危機に至る日本外交の軌跡をふり返ってみますと、あらためて「自主外交」とはなんであったのか、と問い直さざるをえないのが実情のようです。そこで今日は、日本外交の問題点について、お話を伺いたいと存じます。

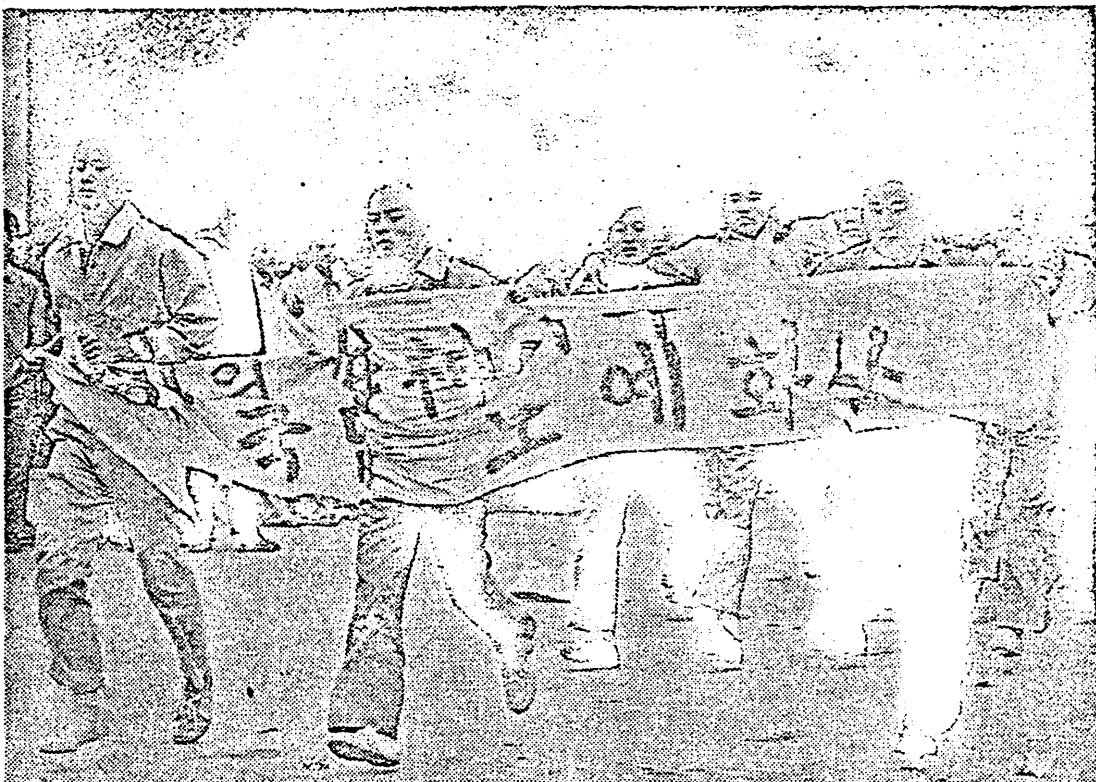
それによって、ヨーロッパから見た日本は、「ずいぶんのきだな」という感じだった（笑）。

U 日本と欧米の石油危機に対する対応の仕方をみてみると二つの重要な違いがある。

一つは、石油に対する考え方の差だ。アメリカでさえ、一〇月九日にニクソンは国民に石油の消費節約を訴えている。この背景には、五六年のスエズ動乱と六七年の六日戦争の記憶が残っていて、中東で戦争が勃発すれば冬は寒くなるという、習性に近い反応がある。それに、第一次、第二次世界大戦の経験から、石油を安全保障と結びつける傾向がある。だから、石油がはいってこないということを、NATOとワルシャワ条約機構の石油備蓄量と対比する感覚を

のんきな日本

T 中東戦争の勃発は、西欧諸国にとっても寝耳に水だった。しかし、一〇月一六日の原油価格の引き上げや、原油供給の削減があいついで発表されると、いちばんの問題は石油だと



まずアメリカへゆき、次にヨーロッパ、そしてソ連へ。そのあとでおもむろにアジア諸国をという田中首相の外遊日程は、どうやら順序を取りちがえてはいないか。日本企業の進出ラッシュはタイ、インドネシア、またお隣り韓国の民衆の間で反感を高めているという。これをどうするのが74年外交の課題の一つ。(朴政権批判の韓国学生デモ——WWP)

持っている。

もう一つは、石油規制の仕方だ。日本では、大口需要で、しかも産業レベルで規制するが、欧米の場合、産業の需要をまず確保して、消費者レベルで規制しようとする。

X 日本でそんなことをやれば、政府の施策は大企業ベッタリだとか、消費者にしわ寄せされたと批判される(笑)。

U これは、日本と欧米では安全に対する感覚がまったく違うからだね。

T 日本と欧米の生活水準の差だよ。日本の場合、国民は貧しいから、ちよつと締めつけられると干上がってしまう(笑)。

R 日本は石油の一般の消費量が非常に少ないため、消費者レベルで規制しても節約にならないという事情もある。

それに、そのための準備もたいへんで、労多くして功少ないだ。それよりも産業レベルで規制したほうが簡単だ。産業のほうは、ある程度の石油の備蓄を持っているから、それほど大きな衝撃を与えずに規制できるという配慮もあったのだろう。

G 今度の石油危機は、日本が「石油ジャック」にあったようなものだね。三木(武夫・副総理)特使は「正義はアラブにあり」と言っているが、日本とアラブの関係でいえば、こちらが頭を下げなければならぬことはなにもない。そのために石油がはいらなくなっても仕方がないことを、政府は国民に訴えたい。

平和バカの心理

T ヨーロッパにいてもう一つ気がついたのは、マスコミが



証券貯蓄は
ご家庭の幸福

第一證券

本店 東京・日本橋・三越前

中東の戦局が混沌としている時から、かなりの確かな情報を流していたということだ。情報はおもにNATOから得ていたようだが、これも日ごろの積み重ねの成果だよ。日本のマスコミは図体がでかいだけで、これにはとても及ばない(笑)。

X マスコミだけでなく、日本政府も十分な情報を持っていなかった。

R 情報には二つの問題がある。まず、素材となる情報が入手できるかどうか、次に、その情報を整理し、判断するシステムが確立しているかどうかだ。

たとえば今度の中東戦争の場合、エジプトの攻撃の企図を察知していたのはソ連だ。ではアメリカやイスラエルが情報を入手していなかったかというところではない。ただ、情報を得ても、判断を誤り、この重要な情報を整理の段階で落としてしまったんだ。

U 情報と一言でいうが、データとインフォメーションとを区別する必要がある。データは片々たる事実の寄せ集めにすぎず、常に過去形が現在形で述べ

られる。これに対し、インフォメーションはそのデータを処理して、自分にかかわる事柄の将来のインプリケーション(意味)を明らかにするものだ。データからインフォメーションを得るには、国家利益とか戦略目標という目的意識が不可欠だ。

Z 田中(角栄)首相がやたら使う数字は、データであってインフォメーションではない。あれは、なまのデータに踊らされ判断停止に陥った姿だね(笑)。

U 中東戦争についていうなら、西欧諸国が的確な情報に基づいて迅速に対応したのに対して、日本はすべて一月一四日のキンシンジャーの来日待ちだった。その間に得た情報は、せいぜいがアラブ諸国を飛び回っていた石油会社の幹部からはいえるものだけだった。

このキンシンジャー待ちの姿勢は、日本が一ヵ月余りの間、目と耳を奪われた状態に置かれていたということだ。これは戦慄すべき事実だよ。

R 日本も努力すれば、かなりの情報が得られたはずだ。しかし、せっかく外務省が情報を

持っている、それを整理して政策決定の責任者のところまであげていく仕組みが、非常にブアーなんだ。

H その日本の外交政策の作成、決定過程の欠陥は、日本が日中国交回復で戦後処理外交を脱し、新しい国際化時代といわれる中で「自主外交」を歩み始めて以来、一貫してみられるものだ。

情報を判断する原則的立場の欠如がいわれたが、同時に、ひとたび立てた予測が、現実の変化に直面し、まちがったとき、すぐ新しい現実を政策にフィードバックする柔軟性にも欠けるところがあるね。

X それは、単に情報の量の問題だけでなく、国際政治に対する「平和バカ的な心理」があるからではないか。現実の世界では、兵器から石油から、あらゆるものを動員したパワー・ポリテックスが展開されている。

日本の新聞がもう手をあげて歓迎した米中接近も、その一環だ。ところが、いまの日本人には、政府当局者を含めて、食うか食われるかという激しい国際的な闘争、そのための権謀術数が理

解できない。タテマエとしての戦争放棄に安住してか、世界政治のドロドロした複雑な過程に対する感覚が失われてしまった。これでは、いかにデータがあっても、宝の持ちぐされで、正しい情勢判断はできないよ。

想像力の貧困

Z 日本の外交は、もうかることならなんでもするというエコノミック・アニマル的な経済至上主義の財界・政府と、日中国交回復のときにみられたような非常に心情的な受け取り方をする一般国民という、乖離した構造に支えられているね。

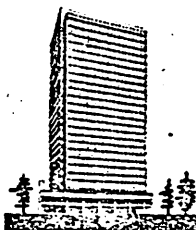
X ときには経済至上主義がうまく心情論を利用する(笑)。

H 国民の間には外交政策に心情的なものやロマンチズムを求める傾向がある。本来、冷静な判断をすべき官僚までがスタンドブレイに走り、政治家といっしょに笛を吹き、踊り始める。

X かくて、日本の「一辺倒外交」が始まるわけだ。国際政治の多極化といえながら、一カ所にワーンと行ってしまう。

U これは、「想像力の貧困」

謹賀新年



緑と光の街づくり—
森ビル

取締役社長 森 泰吉郎
東京都港区芝西久保桜川町2番地
電話591-1351(大代) 千105
東京都知事 (1) 第15762号

だと思う。「想像力の貧困」は「感受性の欠如」が原因だ。今度の石油戦争は実質的には一九七一年から始まっている。七一年から中東戦争の勃発までずっと第一楽章がかなでられていた。第二楽章の始まりが、一〇月六日の第四次中東開戦。そして、第一楽章の終わりの高まりは、四月から始まっていた。四月一九日、サウジアラビアのヤマニ石油相は、「ワシントン・ポスト」記者との会見で、「半年以内に、イスラエルを支持する西欧諸国への石油供給を

削減することを示唆している。

ついで九月一日付けの「ニューズウィーク」で、ファイサル国王は日本を名ざして、「アラブを積極的に支持しないと石油を切る」といっている。

Z こういう一連の警告を、馬耳東風と政府は聞き流した。

T 日本にはアラブに対して「どうせたいしたことはできない」という偏見があった。もし石油に対する同じ情報があれば、アメリカからはいつてきていたら、日本は大騒ぎしていた……(笑)。

U 日本は今日の繁栄を求め、努力をしている間に、価値観の上では徹底的に貧しくなった。ドルこそが最高の価値であると信じ、世界はみな、ドルをほしがっていると考えた。これは「想像力の貧困」以外の何ものでもない。

X 石油はドルさえ出せば、手にはいると信じて疑わなかった。ところが七年以降、石油は売り手市場に逆転していたんだ。この変化にはまったく気づいていない。

R 中東情勢に対する「想像力」で、日本と西欧の間に差が

あったとしても、今までの中東との政治的、経済的、軍事的な結びつきからみて、これは当然のことだよ。日本人の一般的な「想像力の欠如」をいうなら、中国やソ連に対する日本人の「想像力」とヨーロッパ人のそれを比較して論議すべきだ。

現に七三年の秋、ぼくがヨーロッパでベルシャ湾の戦略的重要性を指摘したのに対し、西欧の諸君の関心は、もっと一般的な資源問題にあった。

証文の出しおくれ

U 第四次中東戦争が勃発したとき、田中首相はフランス、イギリス訪問を終え、モスクワへ向かうべく、最後の夜を西ドイツで過ごしていた。この事実のなかに、日本外交のゆがみがよく示されている。

首脳外交ということで、七月にアメリカを訪問したのは、それでいい。しかし、次がヨーロッパだという発想はおかしい。日本が石油の八〇%以上を依存する中東とヨーロッパを天秤にかけたら、どちらがより日本の国益にとってバイタルか、い

ずもがなだ。ところが中東に対する外交が用意されているどころか中東に向けて首脳外交をやるという発想すらなかった。

R 「想像力の欠如」ということを否定するつもりはない。ただ、その背景に、総合的な把握力の欠如があるといいたい。

具体的にいうなら、田中首相は、中東戦争のさなかにモスクワを訪問したわけだが、その際ソ連側からは、イスラエルの占領地からの撤退を求めた一九六七年の国連決議二四二号を尊重する」という声明を日ソ共同で出そうという提案があった。ところが、日本側はそれをすげなくそでにしまったんだ。

Z もし、その時に六七年の国連決議を尊重する旨の日ソ共同声明を出しておれば、二階堂談話のような無様な形で、アラブ寄りへの「変身」を表明する必要はなかった。

X 証文の出しおくれ(笑)。

Z 田中は領土問題でアタマがいっぱいだった。北方領土がそれほど大事なら、イスラエルによって追い立てられたパレスチナ人の苦悩やアラブ諸国の屈

辱がわかるはずだがね。

H ソ連を通じアラブにルートを求めることも考えられる。

R ところが、日本の外務省の感覚では、そこまでとうてい思い及ばない。事前に通産省と協議でもしていれば、そう簡単にソ連の提案に対し拒絶反応を示すことはなかったろう。

しかし現実には、外務省は外務省、通産省は通産省というくあいに、自分の立場でしかモノをみようとしなない。

だから、問題の重要性を把握する場合、総合性が欠如して、何がほんとうに重要なのか、なかなか理解しにくいんだ。

X しかし、田中訪欧、訪ソの最大の眼目の一つは、資源問題にあったはずだ。田中首相自身も西ドイツで「チュメニの油はヨーロッパに、中東の油は日本に」などと、まるでアラブの石油が日本の意のままになるようなことをいっていた。やはりアラブ蔑視だね。

R 石油資源を重視する気持ちはあった。ただ、そのために、なぜ日ソ共同で六七年の国連決議を尊重する声明を出さねばな

らないかという因果関係が、まったく理解されていなかった。

H ゴスイギン、ブレジネフらのソ連側と交渉のテーブルについていたとき、ソ連側首脳は何度も席をはずした。つまり、その時に中東情勢についての連絡をとり合っていた。ところがこっちは、「領土」「領土」とばかり、テーブルでジッと待っていたことになる。

X 日本が国連決議尊重を共同声明に入れるのを蹴ったことは、アラブ側は知っているだろう。三木特使も気の毒だね(笑)。

結婚式場
園遊会・ご宴会
レストラン

国際観光
八芳園

港区白金台1 ☎443-3111 案内書送呈

札ビラ万能視の

身勝手な“政経分離”

R 七三年の四月にぼくらが

エネルギー調査団として訪米したとき、ちょうどヤマニ石油相も来ていた。キッシンジャーはその時点ですでに、エネルギー危機を切り抜けるには、対イスラエル政策の転換が必要だとの判断に傾いていたらしい。

ところが、日本の認識たるや、

イスラエルを軍事・政治両面からサポートし続けてきたアメリカと違い、日本は汚れなき真っ白の手だ、石油戦略で報復を受けるはずもない、といった程度のものであった。六七年の国連決議二四二号を積極的に支持する声明を出そうという想像力など、頭をさかさに振っても出てこないよ(笑)。

幼児性錯誤

Z 今度も“政経分離”の妄想におぼれていた。戦争が勃発しても、商売は商売、ドルがあれば買えないものはない、という

おごりだね。

R 日本のアラブ専門家の中にも、日本は早急に親アラブの態度を明確化しないと大禍を招くことになる、とアドバイスする向きがいろいろあった。が、外務省の役人連にとっては、アラブは遙かなる異邦の地、あつさり黙殺されてしまった。

T ヨーロッパでは、将来を展望される人物は、きまってアラブを、体験してゐる。英国の元首相のイーデンは、外務省時代はアラブの専門家で鳴らしたし、フランスの外相を一年勤めたクブドミルビルも大使としてのカイロ在任が長い。

X 日本では、アラブへの赴任は島流しも同然……(笑)。
Z この二〇年間の高度成長の過程で、日本は否応なく、世界化されてしまった。日本の石油の九十九％は輸入に依存、しかもその八十一％を中近東に頼っている。こうして、世界化が進行していながら、なお世界政治にはわれ関せずの態度で、政経分離ができると思っていた。手前勝手な虚構を押し通した結果が、今回の石油危機だ。

R 文字どおりのグローバル

な成長に、政治家諸先生の近視眼的な想像力がついていけないか、たといふことでもある(笑)。
G ぼくは、日本外交の幼児性を問題にしたい。幼児というのは、自分と外界との区別がつかないから、よく机の角に頭をぶつけて痛めいにある。

同様に、日本は世界における自分の影響力がどの範囲にまで及んでいるのか、皆目わかっていない。たとえば、日本商品は世界各地に浸透していく。これに閉口した受け入れ国は日貨排斥に乗り出して、日米経済戦争が勃発したりする。ところが、この経済力の浸透というのは、軍事力とちがって、自分の勢力の境界線を見定めがたい。わからないのをそのままにしておくから、相手がイライラする理由もますます理解できなくなる。

かくして、日本は、そこら中で衝突を起こし、頭をコブだらけ

にしなげらも、幼児的反応を繰り返すことになる……(笑)。

H しかもこの幼児は、今や巨人症を患う幼児だから始末が悪い(笑)。とりわけアジア諸国は日中復交以降、日本が急激に大国外交を展開し始めたことに大きなとまどいをみせている。

彼らの目には、アメリカのアジアからの撤退と、日中国交回復が二重写しになって見えるんだ。「北京・東京枢軸」という言葉に端的に示されるように、大きな流動化と新たな大國支配の形成に対して、アジア諸国は深刻な不安をいだいているよ。

ために「内剛外柔」型、つまり、国内的には軍事政權体制を強化し、対外的には柔軟な容共的姿勢をチラつかせる政策をとらざるをえない。これが、国内的な混乱を激化させていることを考えれば、日本の外交政策の責任は、実に重大だ。G君も指摘したように、日本は自分が与えるインパクトを読み込んだ外交政策を展開すべきだろう。

なぜアニマルか

G 日ソ交渉の話が出たが、

あの席上で日本側は、なぜソ連における自由抑圧の問題を議題として掲げなかったのかね。
アメリカは、サハロフ問題の帰趨いかんでは、ソ連に最惠国待遇を与えないとまで言っている。アメリカには、国の威信を賭けて守らねばならぬ何ものか——自由——がある。が、この何ものかが日本にはない。田中の訪欧のころは、全ヨーロッパがサハロフ問題でわき返っていたにもかかわらず、田中の頭にはその字もなかったにちがいない。日本外交はプリンシプルなしの

手形割引

ゴルフ会員権・各種証券担保貸付



創業大正10年 資本金1億円
夏目商事株式会社

東京都港区芝5-21-6 TEL(451)8151-5

メクラ運転ということか。

X しかし、サハラ問題にはユダヤ人問題もからんでいるのじゃないか。アメリカの抗議にも、国内のユダヤ人に対するスタン・ブレイのにおいがな

いでもない。
U 西独のプラントも、抗議の意思表示をしたね。日本ならさしずめ、内政干渉で問題になりかねないところ。それを敢えてやったのが、西独と日本の違いだ。日本よりはるかに多くのドルを稼ぎながら、決してエコノミック・アニマルと指弾されない秘密が、ここにある。

日本は、金大中事件でも、国家主権の侵害を言うばかりで、金大中という一個の人間の主権が侵害されたことについての憤りはない。基本的人権を守るといふ明確な意識もない外交では、どんなに援助額をふくらませて、外国の信頼は得られないよ。

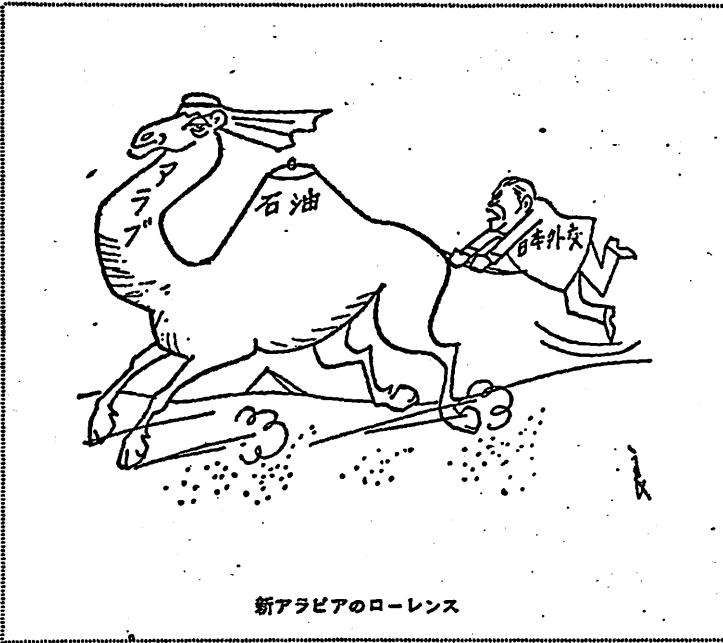
Z 援助といえば、日本が大規模な援助を行なう相手は、不思議に自由なき軍事独裁国家が多い(笑)。人権侵害はしばしば起こるし、汚職や腐敗も横行する。援助が、逆にこれらを

増殖している傾向も指摘されているね。

U 日韓閣僚会談は、二日間の手定を一日に縮小され、対韓援助額もいくらか削減されるよ

ニマルのアニマルたるゆえんだろが……(笑)。

R 評論家としてなら、どうでも管える。自分が外務大臣の立場にあったら、どうするか



新アラビアのローレンス

うだ。しかし、この際、援助には全面的に「待った」をかけたほうが、韓国のためにもいいんじゃないか。もともと、待てないところが、エコノミック・ア

だ。援助を続けてもすぐにはうまいかないし、やめたらやめたでダメになるのが、今の韓国だ。比較的ましな選択は、どちらかということにすぎない。

その場合、ハッキリしているのは、対韓援助をやめれば、朴政権がひっくり返るということだ。その後の大混乱が、日本の安全保障にとって何を意味するかを考えれば、日本の取るべき選択も、おのずから決まってくる。たとえ日本の評論家諸氏からゴウゴウの非難を受けようとも、ここは何とか朴政権にこの事態を乗り切ってもらうようにするのが先決だね。

U 七三年の一〇月二日から続いている学生・知識人・宗教家や新聞記者たちの動きを、どこまで評価するかが、今後の対韓政策の分かれめになる。

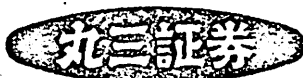
彼らは、単に朴政権批判のみならず、韓国経済が日本経済に従属することにも、正面から反対を唱えている。とすると、対韓援助を続行することは、これら韓国の民衆を敵に回すことになりはしないか。このリスクが日本の政策決定のプロセスでどのように織り込まれていくかに注目していきたい。

R 最近、インドネシアのハルト大統領に会見する機会を得たが、彼は、日本とインドネシ

Aの協力関係を緊密なものにするには、経済的利害関係を越えて、両国が友情と敬意で結びつく必要があることを強調した。これは、従来「政経分離」でビジネスだけのつきあいを旨としてきた日本外交の一つの盲点だ。交流のパイプが太くなれば摩擦も生ずる。潤滑油としての相互理解の精神が、どうしても必要になるんだね。

韓国の場合も同様だ。今後は韓国の文化や人々のセンチメン

調査と情報



本店 東京 日本橋2-5-2 TEL 272-5211

がかかる。ところが、経済のほうでは待ってられない。当面、多少のギクシャクはあっても、目をつぶっていただくほかない。

神州不潔の民？

H 今度、ようやく田中がアジアに出かけるね。米國、ヨーロッパと回って、やっと最後がアジアの番だ。さっき、日本は地理的に隔絶したアラブには目が届かなかったという話があったが、日本の目玉には、至近距離のアジアも映っていなかった。何のことはない、二つの目玉は大國の尻に張りついていたらわけだ(笑)。

X 大國指向型のシッポをつけてヨチヨチ歩き、さてアンヨは上手といかどうか……。

H アジア各地で噴き出してゐる排日運動は、学生・民衆レベルのものだが、これとは別にいわば、体制側でも、反日論が頭をもたげ始めている。

たとえば、第八回東南アジア経済開発閣僚会議でもASEAN諸國から、日本の援助は補完的役割に徹すべし、との厳しい注文が出た。下手をすると、日

本はアジアの民衆からも「体制側」からも孤立することになりかねない。

R 今後の日本外交は、相矛盾する課題を同時に達成していかなければならぬだろう。

つまり、アジア諸國は日本の経済進出が政治的、軍事的インパクトに転化することを非常に警戒している。が、その一方で、経済オンリーの関係ではなく、文化・政治を含めた国家間の総合的な協力関係を樹立することを願っている。この両極の懸念と願望を、いかに調和させていくか。七四年は、まさに対アジア外交の正念場になるよ。

H 経済援助にしても、民間の直接投資はセーブして、ワン・クッションおいた援助に力点を移すべきだろう。アジア開発銀行などを介するのもいい。

経済関係がダノになると、今度は文化外交・知的交流と、安直に新しいものに飛びつきの日本人の悪い癖だが、ことアジアに関する限り、この種の「新外交」はマイナス効果をもたらす危険性がある。戦前・戦中の記憶と重なる、日本文化には侵

略的なイメージがついて回る。田中が欧米でやったように、日本研究講座の設置をどうぞ、と行く先々のアジア諸國で三億円ずつバラまけば、反発をくらすことは必至だ。文化外交でも、迂回コースをとるのが無難だね。

U パンコクの大丸に行くのと、ショー・ウインドーにはゾニーとかナショナルが幅をきかせているし、スピーカーは一日中日本の歌謡曲を流している。本朝は日本語の本でいっぱい。同行した若い連中は、これだから排日の火勢が収まらないんだ、と嘆息してみせた。

しかし、よくに言わせれば、日本の歌や本が侵略的であるとすると、シャンソンやロックも同様に侵略的でありうるわけだ。この点については、それほど神経過敏になる必要はない。

が、本場に過敏にならずに済むためには、やはり、日本人のアジアにおけるビヘイビアを、清潔なものにすることが、ぜひとも必要だ。

たとえば、JALのステュワードスは、ソウル線に乗るの嫌がっているという。行きは行

きて日本人観光客が、期待に目をキラキラさせているし、婦りの便では、声高に「戦果」のほどを披露し合っている。この日本人の群が、韓国民の目にどう映るか。

梨花女子大学のアピールでも日本人による韓国女性の蹂躪が第一点にあがっている。アジアにおける日本人像は、ここまで墮ちてしまっているんだ。これはもう、外交政策以前の問題だよ。日本人は海外での行動を、清潔に律していかなければ、市場や資源問題の解決はおろか、人間としてさえも相手にされないことになる。心すべきだね。

『会社四季報』49年1集訂正
日東製鋼(一六九六)本文中
「新・増設各一〇五億円」とあるのを「一・五億円」に。

芝浦製作所(五〇一六)株主
大株主一位の東京芝浦電気の
持株数を一四一七万七千株に。
日本通信工業(五一〇六)資
本異動欄四九年四月の増資後
の資本金を二億四千万円に。

ときわ相互銀行(七四四六)業
績欄四九年三ヶ月の予想経常
利益額を二二二四に。

産業機械・建設機械・建設資材/海運

ナラサキ
橘崎産業株式会社

東京都港区東新橋1-21(今朝ビル) ☎03(572)5751(代)
支店/札幌・仙台・名古屋・大阪 営業所/全国30か店

利益を一四億六千万円に。

辰巳倉庫(八〇七六)株主欄
四八年一〇月の株主数を二〇四
〇名に、大株主第三位、第四位
の持株数、比率をそれぞれ一九
八三千株(六・六%)、一九〇〇
千株(六・三%)に。

北海道相互銀行(八五四六)業
績欄四九年三ヶ月の予想数字
の資金、経常利益、利益、同
率をそれぞれ一六二〇億、八億、
四億四千万、六三%に。

時価転換社債発行状況(八七
八六)の中の岡本理研ゴムの転
換価額を二二二四に。